

大牟田市立天領小学校

1 本校のESDの特徴

本校では、学校教育目標「共に未来を築く、心豊かで、かしこく、たくましい子どもの育成」の実現に向け、大きく二つの柱を立て、ESDを推進している。

一つは、大牟田市教育委員会と東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センターとの海洋教育研究協定の締結を受け、「みなと小・天の原小・駛馬小・天領小の4校が連携した海洋教育」を通じたESDを展開している。

もう一つは、体育科の研究を長年続けてきたことを生かして、体育科、生活科・総合的な学習の時間、道徳等を中心に、人々・社会とかかわる課題解決的な活動を重視し、「オリンピック・パラリンピック」を通じたESDを展開している。

2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

◇海洋教育の概念「海に親しみ、海を知り・海を守り・海を活用する」の学習を段階的・組織的に展開するための年間活動計画を立案

3年(親)	干潟観察会→調べ学習(海の生きもの)→調べたことの発信(「海まつり」開催)
4年(知)	カヌー体験教室→調べ学習(河口域の生き物・環境)→環境保全のための発信(ポスター作成・貼付, チラシ作成・配布)
5・6年(守・活)	三池港の歴史・役割→貿易港としての三池港→調べたことの発信(三池港の魅力新聞)→三池港を活かしたまちづくりプラン作成→自分たちの考えの発信(海洋教育子どもサミット・全国海洋教育サミット)

◇オリンピック・パラリンピック教育の推進

- ・オリンピック・パラリンピックの歴史や精神について学ぶ
- ・教科学習指導におけるオリンピック・パラリンピックを生かした教材で学ぶ
- ・競技者とのふれあいを通してその精神を学ぶ

そのために、総合的な学習の時間を中心に、体育科、道徳、特別活動との関連を図る全体計画を策定

3 特徴的な活動事例の紹介

【4年 海の時間「つながろう つなげよう

私たちと諏訪川と有明海」

4年生は、地域を流れる諏訪川河口域において生き物・環境調査を行った。その中で、諏訪川にも有明海にいる生き物が生息していたり、人間が出したゴミの多さに気づいたりした。

その上で、駛馬地区公民館前の諏訪川で、「カヌー体験教室」を行った。身近な川での楽しい体験の中、「水の透明度が高くない。」「一見きれいそうに見えるがゴミが浮いている。」などの気付



(諏訪川ゴミ調査の様子)

きをもとに、諏訪川や有明海の環境を守るにはどうしたらよいかを考えた。

調べ学習を進めていく中で「今よりもっと諏訪川をきれいになりたい。生き物が安心して住める川や海にしたい。自分たちにできることはないか。」と考え、川や海に入るゴミを減らすことを呼びかけるポスターを作成した。作成したポスターを校内に掲示することはもちろん、大牟田駅や大牟田市役所、イオンモールなどに出向き掲示をお願いするなどして、自分たちが考えたことを発信する活動を行った。



(作成掲示したポスターの一部)

【5・6年生 総合「パラリンピアンと交流しよう」】

5・6年生は総合的な学習の時間に、東京パラリンピックで、車椅子ラグビー選手として銅メダルを獲得された乗松聖矢選手をお迎えして、交流活動を行った。



(工夫してペットボトルを開ける乗松選手)

前半で、パラリンピック会場の裏話や自分の生き立ちなどのお話を伺った。先天性シャルコー・マリー・トゥース病をわずらい、12歳の時から車椅子生活を余儀なくされたこと。そのような中、ハンデを伴う生活の中でも、なんとか自分でできることを見いだす工夫などをしながら、乗り越えてきたことなどを話していただいた。そして、「勉強をしっかり頑張ること」「身近な人々に感謝すること」「好きなことを見つけること」など、子どもたちに対してのメッセージをいただいた。

後半では、競技用車椅子に乗っての体験を行い、車椅子を利用する人の立場で、これからの行動の在り方を考えた。なかなか出会う機会が少ない一流選手との交流活動を通して、子どもたちは有意義な1日を過ごすことができた。



(競技用車椅子体験の様子)

4 本年度の成果と課題

○成果

- ・海洋教育においては、各学年での体験活動や調べ学習を通して、海の生きものの多様性、人の生活と生物・自然環境の関係、地域に存在する三池港の役割と人の生活との関係、未来のまちづくりにおける開発と保全のバランスの重要性などの学習を深めることができた。また、今年もそれぞれの学年が、Zoomを活用して他校との意見交流活動をすることができ、自分たちの考えに付加・修正をし、考えを広げたり深めたりすることができた。
- ・本物のアスリートとの出会いは、アスリートの生き様と自分たちの生き方を重ね合わせて考える機会を与えてくれた。「自分の中に弱さはあるが、アスリートに負けないよう頑張りたい。」という考えに至った児童も多く、笑顔で前向きに生活できる児童が増えている。

○課題

- ・海洋教育に関して、カリキュラムを尊重しながら学習の展開をしていくのは至極当然であるが、子どもの思いを大切にしたい探求的な学習展開ができるように進めていく必要がある。また、自分の思いや考えを、どんな場面でも臨機応変に自分の言葉で表現・発信することができる力の育成を図っていく必要がある。